

G1チャンピオンズカップ

<最終見解>

芝血統ながら砂適性が高かったために
このステージに出走しているタイプが走りやすいレース。

昨年は1着から3着を「父と母父がサンデー系とキングマンボ系」の配合馬が独占。

いずれも芝中距離G1血統同士で組み合わせられた馬。

本命はクラウンプライド。

昨年の2着馬。

サンデー系×キングマンボ系は昨年も該当馬が3頭だったように、
芝血統ながら砂のG1にまで進む馬は少ないです。

だからこそ、同じ馬が複数回馬券になりやすいのも当レースの特徴。

昨年よりも馬、鞍上ともにパワーアップ。
ここから入って相手に妙味を見出します。

相手妙味の本線は5番ドウラエレーデ。

父はキングマンボ系のドウラメンテ。
母父は海外のダートでも優れた実績を残すオルフェーヴル。

前々走は厳しいペース。前走は上りが早すぎたのが敗因。

もう1頭のドウラメメンテ産駒アイコンテラーも注目。
前走も本命にしましたが、勢いのあるドウラメンテ産駒。

テーオーケインズもリピーター。
連続好走できないタイプで、去年の当レースは前走激走後。
今回は前走凡走。